

1 派遣期日 令和4年11月12日（土）～11月18日（金）

2 派遣先 学校名 上越教育大学附属小学校
所在地 新潟県上越市西城町 1-7-1
<https://element.juen.ac.jp/>

3 研修内容

「自分をつくり未来を拓く子どもが育つ学校」の研究について

【研究の概要】

変化の激しい現代において、私たちには変化を捉えながら対応することができる、しなやかな感性と他者とともに、よりよさを追求し、アイディアや希望を生み出すことができる前向きな知性が求められている。この二つの能力を育成するためには、子どもが主体的に学習に取り組み、自らに疑問をなげかけ、深く思考し、よりよい行為を生み出すこと＝「問い」が必要だと考え、そしてこの「問い」が子どもを動かす原動力になっていることに気づいた。そこで「問い」を学びのきっかけだけでなく、自身の活動を連続・発展させる過程に必要なこととして捉え直した。

「問い」が立ち上がるためには、子どもが感じたことや知っていることを、言語化することで、言葉の論理が生まれ、それらを交流することで共感したり、違和感を感じたり、反感をもったり、予感を思い描けるようになったりする。この感覚を通して、子どもが論理を更新したり、再構築したりすることで、子どもの「問い」ができる。したがって私たち教員は子どもたちが共有できる事実に対して、論理の更新や再構築をする環境を整えることが大切である。このような考えから、子どもの「問い」が立ちあがる姿が様々な活動において繰り返し現れる教育課程の開発を行った。

上越教育大学附属小学校では元々、体験から生まれる豊かな発想や柔軟な考えを基に、新しい時代を切り拓く子どもが育つ学校の具現化を「創造活動」「実践教科活動」「実践道徳」「集団活動」の4つの教育活動から行っている。これらに「問い」が立ち上がるという視点を入れ活動に取り組んだ。「創造活動」では、対象とのかかわりをひろげる事実との出会いを設定すること、「実践教科活動」では、生きてはたらく知識や技能をつくる過程における行為の変容を思い描いた環境作り、「実践道徳」では、道徳的な価値観の自覚を促し、対象の新たな一面に触れる働きかけを思い描くこと、「集団活動」では、期待づくりと振り返りを繰り返す中で自分や他者の思いに気づくきっかけを具体化し活動に盛り込むようにした。

【各教育活動の例】

①創造活動 6年「名家の守人」

児童は4月から4つの当主を見学しながら、歴史、邸の維持の難しさ、特徴的な造り、当主の思い、地域とのつながりなどを感じ取ったり見いだしたりしてきた。名家と当主、管理について意見を交流する場を設定することで、子どもが考えを更新したり、再構築できるようにした。ある児童は名家の管理を地域の人がやっているところが増えていることに違和感をもち、名家は当主が管理すべきだと意見をもった。交流を通して、当主

にもやりたいことがあり、地域の遺産を押しつけるべきではないという考えにも触れたが、「それでは博物館みたいになってしまう」とさらに考えを更新した。しかし、当主の苦労を考えると、現在、当主が管理を行っている名家はすばらしいと考えを再構築することができた。

②実践国語科 1年「おはなしポケット」

児童は、ヤギをテーマにした物語を考える活動を行った。学校で実際に飼っているヤギについて題材に取り入れたり、新たな登場人物を出したり、ヤギとの会話を考えたりするなど、児童はそれぞれおもしろいと思う物語を作った。物語を面白くするそれぞれのアイデアを掲示し、お互いに見合うことを通して、児童はおもしろくなる予感を感じたり、共感することができたりするなど、考えの更新・再構築をすることができた。また自由に物語を作ること、自分の感性や大切にしていることなどを伝えることに気づき、より積極的に物語を書き、友達の物語を聞くことができるようになった。

③実践道徳 2年「屋台に招待すること」

児童は、自分たちで商品をつくり、互いに売り買いする活動を行った。そこから自分たちだけではなく、「他の学年も招待したい」という思いをもち、他の学年を招待することにした。他の学年との交流をすることで喜ばれる経験やトラブルを経験した。トラブルの内容は招待していない学年の子がきてしまうことだった。そこで道徳の授業の中で解決方法を話し合った。ルールやお客さんの気持ち、自分たちの気持ちについてそれぞれ意見を交流し、お客さんと、商品、屋台に集まる人との関わりについて「公共性」「平等」「規則の尊重」の観点から考えを深めることができた。

④集団活動 全学年「秋の音楽集会」

全校で音楽活動に取り組み、それぞれのクラスの成果をお互いに鑑賞し合ったり、保護者の方に成長を感じてもらったりする活動を行った。クラスの発表は佐渡の伝統芸能を基にした「鬼打太鼓」に統一し、発達段階による違いを楽しんだ。

児童は、日々の活動を思い浮かべ、自分や仲間が大切にしているものやことをどのようにして表すのか考え、思いを語ったり受け止めたりしながら、パフォーマンスを考える。そうして、学級についての捉えをつくり、さらにつくり変えていく。また他の学級のよさや面白さを捉えたり、違いを感じたりしながら、その場にいる全員で「鬼打太鼓」を表現する楽しみをつくりあげることができた。

4 感想

児童に「問い」が立ち上がり、主体的に学習に取り組むとともに、多面的多角的に物事を見たり、判断したりする児童の姿が見られた。「問い」ができるためには意見の交流が不可欠なことがわかったので、意識的に取り入れていきたい。その際にはテーマを明確にすることや児童が考えをもつこと、相手の考えを受容する態度などに気をつけて指導していきたい。そして児童が意見を交流することでさまざまな感情を体験し、質問し合ったり、理由を述べ合ったりすることで、考えの更新や再構築ができるようにしたい。